

2017年10月30日  
地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議

美作大学・美作大学短期大学部のような地方小都市に立地する大学の  
経営の現状と生き残り策

美作大学  
美作大学短期大学部

学長 鵜崎 実

■ 本学の所在地 岡山県津山市

人口 102,319 人

(2017 年 8 月 1 日)

18 歳人口は 1000 人を切っています。

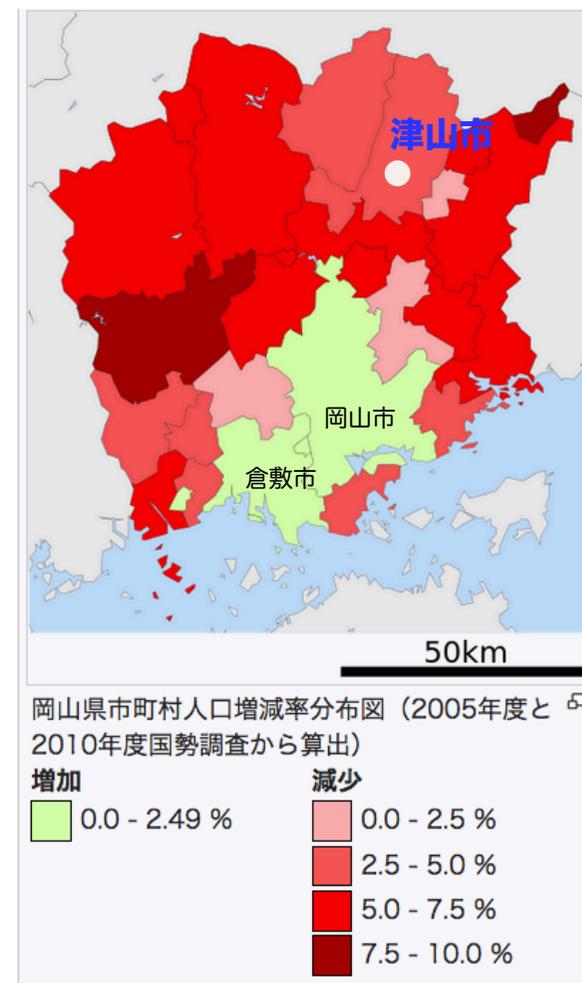
急激な人口減少下にあり、18 歳人口は  
今後 30 年で半減すると予想されています。



この地域の大学短大進学者数は 400 名ほどと推定され、地元からだけで本学の入学定員 320 名(短大含む)を満たすことは到底不可能であることから、県外から学生を集めることで活路を見い出さざるを得ない宿命にあります。  
なお、岡山市、倉敷市など人口密集エリア、人口増加エリアからは交通の便が悪いため自宅通学の圏外となります。いわば“陸の孤島”です。

■ 学生募集の状況：長年にわたり入学定員 320 名を充足しています。

学科 (募集人員)	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	25年度以降 5年間平均	募集人員 充足率
食物 (80)	91	98	93	84	87	91	1.13
児童 (80)	98	91	92	90	94	93	1.16
社会福祉 (50)	61	41	48	44	49	49	0.97
短大・栄養 (40)	48	37	48	49	45	45	1.14
短大・幼児教育 (70)	82	73	64	79	70	74	1.05
合計 (320)	380	340	345	346	345	351	1.10



## ■ 地元津山市（及び美作地域）からの入学者数

地元からの入学者数は、下表の通りです。津山市内からの入学者は全体の2割強、美作地域全域を見ると3割となります。18歳人口が少なく津山から大学・短大進学する者が毎年400名程であることを考えると、本学にはその2割＝80名程度が進学しており、高校生には様々な将来への夢、進路があることを考えると、これ以上の上乘せは非現実的であり、“食と子どもと福祉”の分野の専門を学ぼうと考える地元学生の大多数は本学に進学しています。

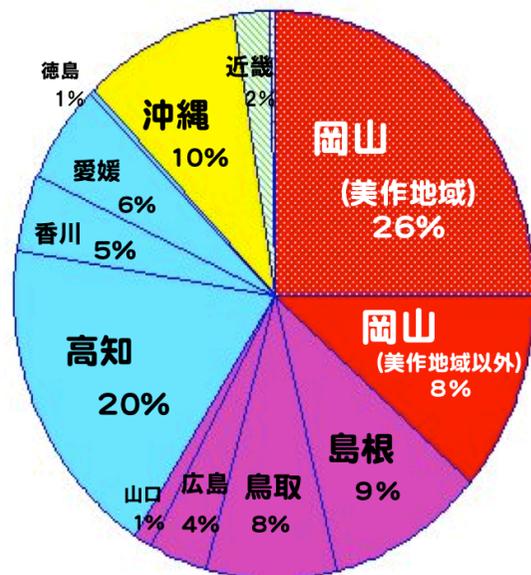
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	5年間平均
本学の全入学者数	380	340	345	346	345	351名
津山市内出身者	88	71	81	75	78	79名
入学者に占める津山市内出身者の割合	23%	21%	23%	22%	24%	23%
美作地域(含津山)出身者	121	98	100	102	109	106名
入学者に占める美作地域出身者の割合	32%	29%	29%	29%	33%	30%

津山市（及び美作地域）への就職者数も、毎年100名程となっており、この地域の保育所、病院、福祉施設等への求人に応じています（津山市の待機児童は0である）。

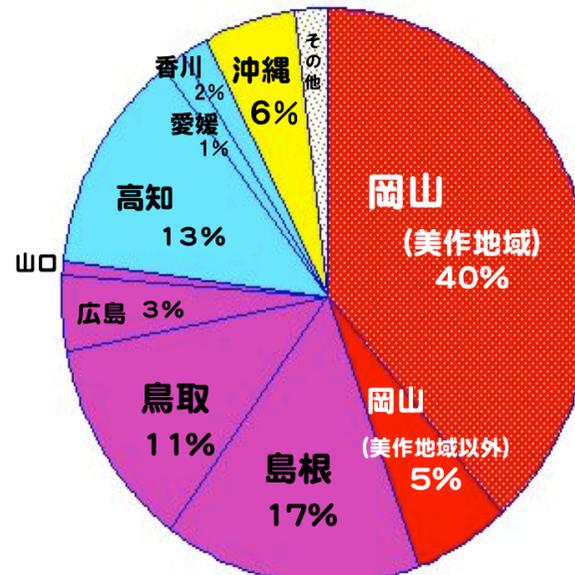
→ 地元の人材育成の役割は果たしています。

- “陸の孤島の”な地方都市に立地する大学の経営は、他県（地元以外）から学生を集めることなくして成り立たない！

学生出身県割合（大学）



学生出身県割合（短大）



- 他県（地元以外）からの学生募集を成功させる基本戦略について

戦略1 圧倒的な教育力を持つ（実証データを示す）

戦略2 故郷（出身県）へのUターン就職の実現

戦略3 個々の学生に寄り添う面倒の良い学生指導

入学した学生を卒業まで面倒を見る！ → 退学率の低さ 年間 1.6%（全国 2.7%文科省調べ）

## 【戦略1】 圧倒的な教育力の形成（具体的に実証データを示す）

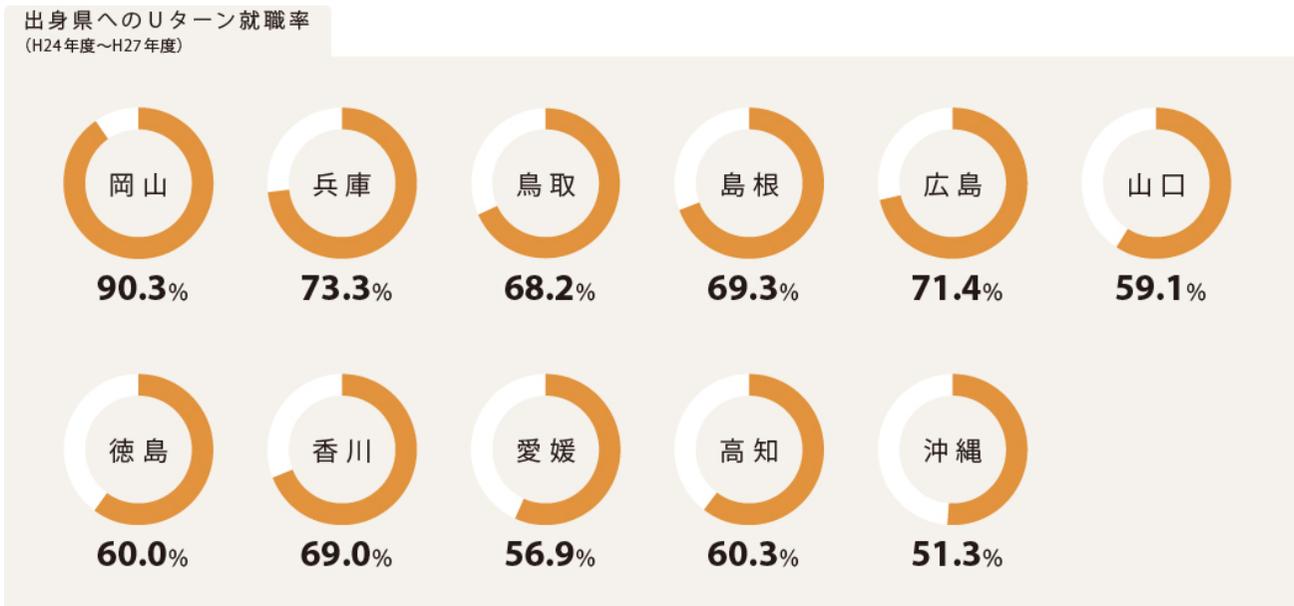
中国四国地方には、本学と類似する学科を持つ公立大学が多く存在し、また官尊民卑の土地柄もあり、学生募集上、国公立大に勝るとも劣らない成果を上げることが必要となります。

（例）国家試験の結果

管理栄養士・社会福祉士国試の合格率（H28年度）		
	管理栄養士	社会福祉士
美作大学	95%	74%
国公立大学	95% (全国21校平均)	66% (全国25校平均)

## 【戦略2】 故郷（出身県）へのUターン就職の実現

（もちろん地元津山出身学生は地元就職を実現）



## Uターン就職率を高めるために取り組んでいること

- ①全学を挙げた就職開拓訪問活動（夏休み期間に教員が手分して 866 箇所訪問）
- ②学外実習・臨地実習を出身県で実施
- ③各県との就職開拓協定の締結（高知、島根、鳥取、愛媛と締結）

締結県	卒業年度	美作大学のUターン就職率	美作大学のUターン就職率順位	全締結大学平均Uターン就職率	備考
高知	H28	61.3%	1位	37.3%	平成28年度までの10大学の平均値
島根	H26	64.0%	1位	37.6%	平成29年10月現在締結13大学の平均値
	H27	72.1%	1位	38.9%	平成29年10月現在締結13大学の平均値
	H28	72.1%	1位	36.5%	平成29年10月現在締結13大学の平均値
鳥取	H28	73.3%	1位	30.7%	県外進学上位50校中報告のあった42大学の平均値

※愛媛県は、Uターン就職率を未集計のため、不明。

高知県と本学との就職支援協定に基づく懇談会（2016年12月4日）開催

尾崎知事が、「美作大学は高知家の一員」と発言

美作大学から要望事項（2点）

1. 高知へUターンできる大学（人材を育てて地元へ帰す大学）に関する情報の公開を要望
2. 高知出身学生の高知県での実習の受け入れを要望

島根県との懇談会（2017年9月3日）開催（溝口知事が参加）



## ■ 県外への大学進学を抑制する政策について

この政策の推進によって、  
美作大学のような、人口の少ない地方都市（“陸の孤島”）に立地する私立大学の経営は成り立たなくなる！

## ■ 本学のような立地条件にある私立大学の生き残りの道は、どこにあるのか！？

同条件の私立大学の多くが立ち行かなくなり、公立化の道を歩もうとしています。

→ 宇和島市、福知山市、小野田市、旭川市など

### (地方小規模都市に立地する私立大学維持のための要望)

- ①このような地方都市にとって、大学の存在は死活的重要性を持っています。今後地方創生の一翼を担う公的な役割（地域の人材育成ビジョンづくりなど：私大等改革総合支援事業タイプ5など）を果たす必要があります。公立大学並みに私立大学の支援を目的とした交付税を自治体に交付するなどの公的な支援ができないか。
- ②地方小規模都市に立地する私立大学は人口減のあおりをまともに受けており、今後、地域の人材育成ニーズに応えて新たな学科設置をするためには、入学定員20～30名ほどの小規模学科を想定せざるを得ません。小規模学科でも経営が成り立ちうるように設置基準を改訂できないか。

